



新大分土地代表取締役社長
阿南 勝啓氏

ホテル建設、ビル再生で夢追う

昨年7月、大分駅前の所有地(九電大分支店横)にビジネスホテルを着工した。14階建てで、客室数は234。今年の11月にオープン予定。「全国展開する東横インの一括賃貸方式によるビジネ

スホテルです」。

新大分土地は昭和13年創業。昭和20年代には大部分駅前の所有地で映画館やタクシー会社に物件を貸し付け、地域に娯楽性や利便性を提供。昭和40年代の高度経済成長時代にはオフィスビルを建設し、進出企業や地元の会社の事務所など企業のビ

しい形のビジネス拠点をつくるうど、ビジネスホテル建設を計画したわけです」。同社は、時代が求めるもの不動産という形で地域に提供して育ってきた会社であるということを強調する。

「dプロジェクト」により都町の「スロウダイニングビル」は、入居率100%に再生された。1、2階の飲食店はもちろん、3、4階のSOHO(スマートオフィス・ホームオフィス)は、少人数のベンチャー企業のサテライトオフィスやデザイナーなど個人の仕事場として人気を集めている。

「この事業で感じたことは、新たな起業の場を真剣に求めていた新しいテナント需要の存在です。ビルの空き室の増加は、企業の撤退や物件の老朽化だけが原因ではなく、ビル側が新しいテナント需要に対する魅力の創造に欠けていたことを認識するべきです」。

岡間が近くなり、企業がわざわざ経費をかけて大部分に事務所を構える必要がなくなってきたからであります。決して大分での仕事がなくなつたわけではなく、出張で十分にまかなえるエリアになってきたからです。それならば、オフィスビルに代わる新



11月オープン予定の「東横イン」

老朽化したテナントビルの空き室の対策として取り組んでいるビル再生事業「d

「ビルを再生するのはテナントや入居者たちときっぱり。「夢に近づこうとする入居者たちのパワーによってビルは新たな役割を与えられます。そんな夢追い人たからが『ここに入居したい』という魅力と環境を創り、入居者の夢を応援することが、当社の役割です。入居者が生き生きと輝けばビルがよみがえるだけでなく、まちが元気に楽しく魅力的になります」。

春には「d・dプロジェクト」第3弾として、ユニークなスマートオフィスをアピューザせる。「わくわくする新しい価値を提案していくたい」。夢追い人を後押しする阿南社長もまた夢追い人の一人だ。

新大分土地 株式会社

本社/大分市中央町1丁目5番25号 新大分ビル4F
TEL(097)534-3371
府内営業所/大分市府内町1-6-19(サンサン通り)
TEL(097)536-2002
<http://www.shinoita.com/>